

日本人大学生はオンラインでの韓国語研修を どのように捉えているか

高柳 有希*・安 龍洙**

(2022 年 11 月 8 日 受理)

What are Japanese college students thinking about Online Korean language training?

Yuki TAKAYANAGI* and Yong Su AN**

(Received November 8, 2021)

抄録

本稿では、PAC 分析を用いて、韓国語オンライン研修に参加した日本の大学に在学中の日本人学生 3 名を対象に、日本人学生が「韓国語オンライン研修」をどのように捉えているのか調査を行った。その結果、「交流が楽しい」「不安（緊張）」「韓国語は難しい」という 3 つのイメージが共通して挙げられた。COVID-19 の影響でオンライン化された研修に関して、「近い（親しい）距離で交流できた」「オンラインでカメラオンで参加するため、発音矯正や授業の雰囲気把握などに役に立った」など、オンライン研修の良い点が挙げられた。オンライン研修では、オンラインライブ授業の形で、参加者全員カメラオンにし、先生と学生間、日本人学生と韓国人学生間のコミュニケーションが円滑に取られるように工夫する必要があると分かった。

【キーワード】日本人学生、韓国語研修、オンライン、PAC 分析

はじめに

本研究は、日本社会における日本人と外国人の異文化相互理解について、日本人学生を対象に個人別態度構造分析法（Analysis of Personal Attitude Construct: PAC 分析）を用いて、認知的・情意的観点から探る一連の研究の一部である。

本稿では日本の大学に在学中で日本に在住の日本人学生 3 名を対象に PAC 分析を用いて、日本の大学生が「韓国語オンライン研修」をどのように捉えているのか調査し、その特徴を探った。

これまでに日本や韓国でのオンライン授業の実態を探った先行研究としては、高柳・安（2021）

*仁済大学リベラルアーツカレッジ国際語文学部

**茨城大学全学教育機構

(2022) が挙げられる。また、現地での韓国語研修に参加した日本人学生の韓国観について探った先行研究としては松本 (2008) (2014) が挙げられる。韓国に留学した日本人学生の韓国観の実態を探究した先行研究としては、高柳・安 (2019) が挙げられる。本研究では、新型コロナウイルス (COVID-19) (以下 COVID-19)、の流行によりオンライン化された韓国語研修が日本人学生の韓国観にどのような影響を及ぼしているのか考察し、先行研究と比較しながら韓国語オンライン研修に参加した彼らの韓国観の特徴について分析したい。

高柳・安 (2021) では、韓国留学中の日本人学生 2 名を対象に COVID-19 が韓国での留学生活に及ぼす影響について調査を行った。その結果、被調査者 2 名に「韓国語を学ぶ環境の悪化」と「大学の対応への不安」といった内容が共通してネガティブなイメージで挙げられた。相違点としては、COVID-19 流行中、韓国で過ごしていた被調査者 A は不便だが貴重な体験ができたとポジティブに捉え、休学して日本で過ごしていた被調査者 B は自身の将来や韓国語能力の低下に対してネガティブに捉えていたことが挙げられた。オンライン授業については、対面授業に比べて集中力の低下など不便な点が挙げられたが、「少人数であればオンラインライブ授業を行うことで効率的な学習ができる」ということが示された。

高柳・安 (2022) では、日本の大学に在学中の日本人学生 2 名と、韓国の大学に在学中の韓国人学生 2 名を対象に、日韓の大学生が「コロナ禍での大学生活」をどのように捉えているのか調査を行った。その結果、オンライン授業に関しては、日本人学生 2 名は「たくさんの資料提供」「学生 1 人 1 人の顔が見える」などのプラスの内容について、韓国人学生 2 名は「集中できない」「質問しづらい」というマイナスの内容を中心に話をした。しかし、日韓の学生 1 名ずつが「課題」の存在の大切さに触れ、オンライン授業を運営するうえで「課題」を出すことは学生たちのモチベーション向上に効果があると分かった。また、コロナ禍になってから、人との連絡の頻度が増え、オンラインで繋がるという方法が強制的に日常化され、離れたところにいる友達と繋がるきっかけが以前より増えているという結果が示された。

松本 (2008) では、韓国語研修に参加した日本人学生 4 名を対象に「韓国語の上達度」や「自分自身の変化」などについてアンケート調査を行った。その結果、「韓国語の上達度」に関しては 5 段階評価 (5 が最高評価) で「5」が 1 名「4」が 3 名と学生たちは自らの韓国語が上達したと認識していた。「研修を通じた自身の変化」に関しては、「積極性がついた」「勉強のモチベーションが高くなった」など答え、「3 週間の研修で印象深かったこと」に関しては、「いろんな人間がいるということ」「普通の大学生活では絶対ない出会いをたくさんした」「韓国事情に詳しい人、たくさんの言語を話せる人など様々な人から刺激を受けた」と答えるなど、学生たちが様々な人と出会い成長している様子が窺えた。

松本 (2014) では、韓国語研修に参加した日本人学生 18 名を対象に「韓国 (韓国人) に対するイメージの変化」や「積極性」「視野の広がり」などについてアンケート調査を行った。その結果、「韓国観の変化」に関しては「韓国人は気の強いイメージだったが実際は親切で優しい」「反日問題が心配だったが、実際は日本語で話してくれたりとても優しい人ばかりだった」など、チューターの韓国人学生との交流やキャンパス外での現地の人との出会いなど実体験を通してステレオタイプや偏見に関して気づきが生まれ、韓国人のイメージに変化が生じたことが示された。「積極性」に関しては、「積極性と行動力が必要」と感じ、自分の性格を「引っ込み思案」「消極的」「人見知り」と形容しながら意識と態度に変容が起きていると示した。「視野の広がり」に関しては、「勉強だけでなくいろいろなところに出かけて韓国の雰囲気を味わうことで視野を広げられる」「世界の

広さを知った」「隣の国とはいえ、文化の違いがたくさんあると感じた」「日本文化を見直すきっかけになった」など研修を通して学生それぞれに学びがあったことが示された。

高柳・安(2019)では、韓国留学中の日本人学生3名を対象に3回に渡って韓国留学観について追跡調査を行った。その結果、1回目の調査では、「人と人との距離が近い」「一人で行動(ご飯)しにくい」「酒文化」という項目が被調査者3名に共通して挙げられ、「人と人との距離が近い」に関しては、驚くがプラスに捉え、「一人で行動(ご飯)しにくい」「酒文化」に関してはマイナスに捉えていた。2回目の調査では、「韓国の文化に慣れた」「日本に関心を持ってくれる(親切にしてくれる)人が多い」「韓国語に限らず韓国に関わる仕事したい(将来の選択肢が増えた)」「服は意外と無難(他人と同じにする)」「酒文化」「交通費が安い」という項目が2名以上共通して見受けられ、特に「韓国に慣れた」という特徴が強く伺えた。帰国直前に行った3回目の調査では、被調査者3人に共通して2回目からあまり変化がないこと、韓国に慣れて日韓の違いを意識しなくなったことが示された。しかし、お酒の文化に関してはネガティブな印象が変わらないかもしくは強まる傾向が窺えた。

本研究では、日本人学生が「韓国語オンライン研修」をどのように捉えているかについて、オフラインで行われていた「韓国語研修」「韓国留学」に関する先行研究や「オンライン授業」に関する先行研究と対比しながら、各特徴、また共通点、相違点を検証した。

2. 調査方法

調査は、1部と2部に分けられる。1部は質問紙による調査で、被調査者の属性を尋ねるフェイスシートと「韓国語オンライン研修」に対するイメージ評価からなっている。1部のイメージ評価の手順は以下の通りである。

- (1) あなたは「韓国語オンライン研修」という表現からどんなイメージが思い浮かびますか? 思い浮かんだイメージを「単語、または短い文」で下の【質問Ⅰ・記入例】のように【質問Ⅰ】に記入してください。上記①～③はイメージ項目に入れて、あなた自身のイメージを7個以上書き、全体のイメージ項目が10個以上になるようにしてください。
- (2) (1) で書いたそれぞれの「単語か短い文」が、プラス・マイナスのイメージに関係なく、あなたが「韓国語オンライン研修」を考える時に、重要と考える順番に並べ替えてください。
- (3) 次に、「重要イメージ」のイメージ項目同士を比較して、二つの組み合わせがどの程度近いのか、判断していただきます。最初に、①と②を比較します。①と②の関係が、直感的なイメージやその内容から見て、どの程度近いのか、次の尺度で判断して、「1、2、3、・・・」と書いてください。同じ要領で、①と③、①と④・・・というふうに、最後の組み合わせまで比較して、記号1、2、3などで書いてください。尺度は、非常に近い=1/かなり近い=2/いくぶん近い=3/どちらともいえない=4/いくぶん遠い=5/かなり遠い=6/非常に遠い=7とします。

上記(3)において作成された「重要イメージ対比表」を基に、ワード法でクラスター分析をし、デンドログラムを作成した上で、2部のインタビューによる調査を行った。2部の調査では個々の被調査者のデンドログラムに基づき、インタビューによる調査を行った。まず、被調査者にクラスター分析を行ったデンドログラムを見せ、各項目についての説明やクラスター分けについての解釈について尋ねた。最後に、連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は(+)、マイナスイメージの場合は(-)、どちらともいえない場合は(0)の記号を記入してもらい、各イメージを抱くようになったきっかけや媒体などを尋ねた。

本調査は、2022年2月に開催された「韓国語オンライン研修」の日本人参加者（日本の大学に在学中で日本在住）3名を対象に行った。なお、調査についての説明及び協力の同意はLINE（SNSアプリケーション）を通して確認した。調査は、被調査者が二週間の研修を終えてすぐの2022年3月初旬から中旬にかけて調査用紙を利用し行われた。

3. 結果

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し被調査者自身の解釈について述べる。

3.1. 被調査者 A

図1は被調査者Aのデンドログラムである。

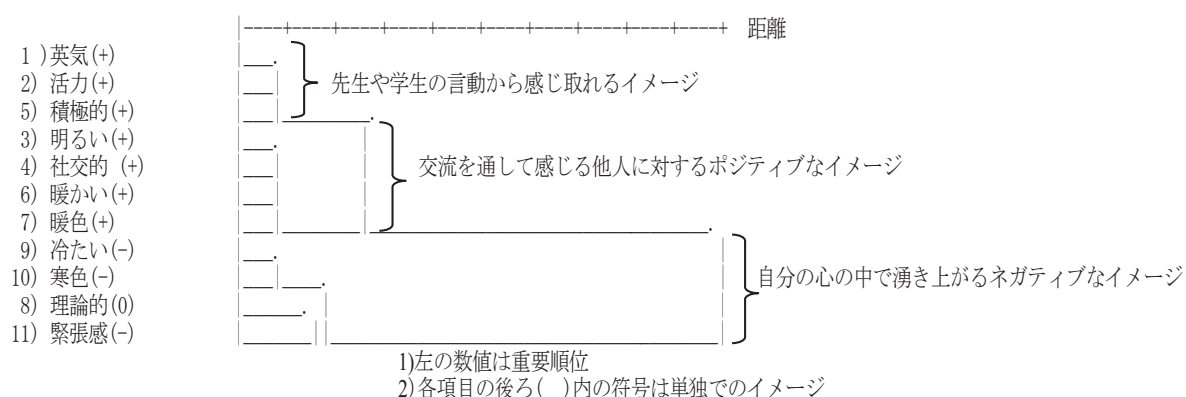


図1 被調査者Aのデンドログラム

被調査者Aのクラスター1～クラスター3までのクラスター解釈のインタビュー内容を以下の表1に示す。また、クラスター名については、クラスター1を「先生や学生の言動から感じ取れるイメージ」、クラスター2を「交流を通して感じる他人に対するポジティブなイメージ」、クラスター3を「自分の心の中で湧き上がるネガティブなイメージ」とした。

クラスター1では、「先生や学生の言動から感じ取れるイメージ」として、「英気」「活力」「積極的」というイメージを挙げている。全てプラスのイメージで、「英気」「活力」は研修中の先生や学生の態度から、「積極的」は研修に参加してる他の学生の発言の様子からイメージされたという。被調査者Aは、研修に参加すること自体に「英気」「活力」が必要であり、これらが原動力となって「積極的」な活動に繋がるとした。松本（2008）（2014）では、韓国語オンライン研修の参加学生が研修を通して「積極的」になる様子が示されたが、今回のようなオンライン研修でも研修中に積極的な姿勢が生まれることが分かった。

クラスター2では、「交流を通して感じる他人に対するポジティブなイメージ」として、「明るい」「社交的」「暖かい」「暖色」というイメージを挙げている。全てプラスのイメージで、「明るい」は研修中に他の学生や先生が発表や話をしている様子から、「社交的」は韓国学生とペアを組んだ際に、「暖かい」「暖色」は学生や先生とコミュニケーションをとる際にイメージされたという。被調査者Aは、オンライン研修での交流を「近い（親しい）距離」での交流と表現し、明るく社交的な学生と交流していると「暖かさ」を感じると話した。これは、高柳・安（2021）で挙げられた「少人数であればオンラインライブ授業を行うことで、先生と学生がお互い顔を見てコミュニ

表 1 被調査者 A のクラスター解釈

<p>クラスター 1：『1) 英気 (+)』『2) 活力 (+)』『5) 積極的 (+)』</p> <p>韓国語オンライン研修に参加する上で多くの人が持っているであろうと考えられるイメージが集まったクラスター。これら(特に英気、活力)が無い人は、韓国語オンライン研修には参加していないと考えられる。これらは、先生や他の学生達の話している様子を客観的に見ている時、コミュニケーションを取る時に各々の話し方や行動から感じ取ることが出来る。「英気」や「活力」があれば「積極的」な活動に繋がるため、これらは同じクラスターに属する。</p>
<p>クラスター 2：『3) 明るい (+)』『4) 社交的 (+)』『6) 暖かい (+)』『7) 暖色 (+)』</p> <p>韓国語オンライン研修中に、他の学生や先生との交流を通して感じたポジティブなイメージが集まったクラスター。これらは先生や他の学生達と近い距離で(=親しく)コミュニケーションを取る際に感じる。クラスター 1 は誰かが話しているのを一方的に聞いていても感じ取れるイメージだが、クラスター 2 は自分が誰かと実際にコミュニケーションを取る際に感じる事が多いイメージが集まっている。明るくて社交的な学生や先生と交流していると、「暖かい」空気や、ピンク色・黄色のような「暖色」の雰囲気を感じるため、これらは同じクラスターに属する。</p>
<p>クラスター 3：『9) 冷たい (-)』『10) 寒色 (-)』『8) 理論的 (0)』『11) 緊張感 (-)』</p> <p>韓国語オンライン研修中に、自分が言いたいことが言えなかったり難しく苦戦したりしたときに感じたイメージが集まったクラスター。自分の中で順調に理解が進んでいっているときにはこれらのイメージを感じることはないが、教わった知識に理解しにくい部分があると「難しい」「大変だ」といった不安や焦燥感と共にこのイメージを感じる。発言する場面で緊張感を感じると、「冷たい」「寒色」系の空気も感じる。簡単に理解できる知識を学んでいるときは「理論的」だなどという感情は湧かないが、難しさを感じると「理論的」だなど少し負の(冷たい)感情が湧いてしまう。</p>
<p>クラスター全体</p> <p>クラスター 1：先生や学生達と交流してみて感じるイメージというよりは、先生や学生達が話している様子を客観的に見ていると感じるイメージ。交流をすることで掴める各人の個性ではなく、客観的に感じ取れる勝手な印象のようなものであるという点が特徴である。</p> <p>クラスター 2：人間の性質や雰囲気など、先生や学生達と交流することで感じる事の出来るイメージ。他人に対するポジティブなイメージが集まっていることが特徴である。</p> <p>クラスター 3：自分が研修中に苦戦したり韓国語が難しいと感じたりしたときに浮かぶネガティブなイメージ。他人を見たり、他人と交流したりすることで感じ取れるイメージが集まっているクラスター 1,2 とは異なり、クラスター 3 には自分自身の中で浮かび上がるイメージが集まっている点が特徴である。</p>

ケーションをとりながら効率的に学習ができる」というオンライン授業の良さがオンライン研修の交流の場でも生かされていることが窺える。

クラスター 3 では、「自分の心の中で湧き上がるネガティブなイメージ」として、「冷たい」「寒色」「理論的」「緊張感」というイメージを挙げている。「理論的」はプラスでもマイナスでもないイメージで、それ以外全てマイナスのイメージである。「冷たい」「寒色」は自分が韓国語で言いたいことを言えなかった時、「理論的」は教わったことを十分に理解できなかった時、「寒色」は自分の考えを発表する時にイメージされたという。被調査者 A は、オンライン研修の授業の中で、理解しにくい部分があると「難しい」「冷たい」というマイナスのイメージが湧いたと話す。高柳・安 (2021) でも COVID-19 によりオンライン授業が導入された環境について「韓国語を学ぶ環境の悪化」が指摘されているのを見ても、オンライン研修の韓国語学習には不便が伴うことが分かる。

全体として、被調査者 A は韓国語オンライン研修の学生や先生との交流に関しては「近い(親しい)距離」や「暖かさ」などプラスのイメージを持ち、韓国語授業で理解しにくい内容が出た時の不便さに関して「冷たい」などマイナスのイメージを持っていることが特徴的である。

3.2. 被調査者 B

図 2 は被調査者 B のデンドログラムである。

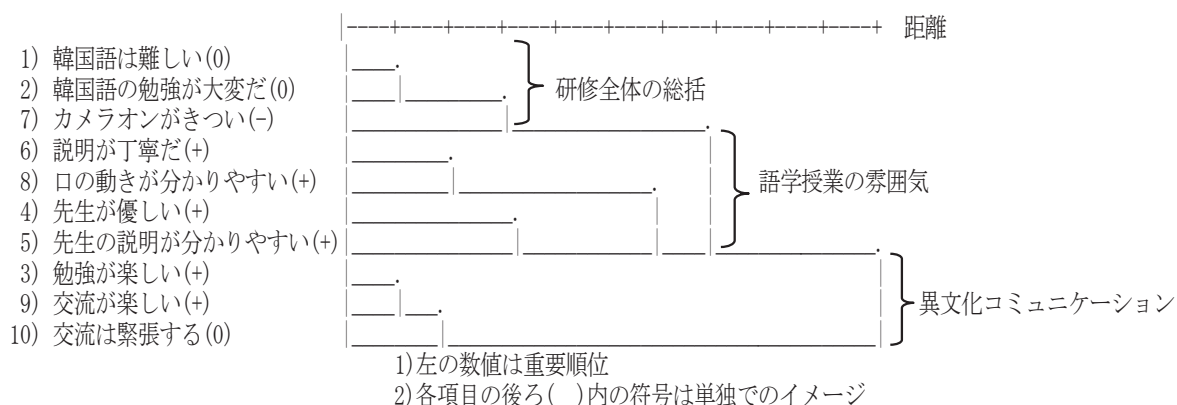


図2 被調査者Bのデンドログラム

被調査者Bのクラスター1～クラスター3までのクラスター解釈のインタビュー内容を以下の表2に示す。また、クラスター名については、クラスター1を「研修全体の総括」、クラスター2を「語学授業の雰囲気」、クラスター3を「異文化コミュニケーション」とした。

表2 被調査者Bのクラスター解釈

クラスター1:『1) 韓国語は難しい (0)』『2) 韓国語の勉強が大変だ (0)』『7) カメラオンがきつい (-)』
異国語を学ぶという授業全体を通して抱いたイメージで、韓国語という学問に関わらず、 <u>母国語ではない言葉を学ぶという研修内容に関して感じた精神的なストレスや困難さ</u> について。
クラスター2:『6) 説明が丁寧だ (+)』『8) 口の動きが分かりやすい (+)』『4) 先生が優しい (+)』『5) 先生の説明が分かりやすい (+)』
語学の授業を通して抱いたイメージで、授業内容に関して自分が素直に思った感想や語学授業全体の雰囲気やカメラオンだからこそ感じられた良さについて。
クラスター3:『3) 勉強が楽しい (+)』『9) 交流が楽しい (+)』『10) 交流は緊張する (0)』
文化授業・授業外での韓国人のペアとの交流を通して感じたイメージで、 <u>日本人ではない人と文字や言葉のコミュニケーションを行うことへの不安やそのコミュニケーションを通して感じた異文化コミュニケーションの楽しさ、語学授業で勉強したことを生かした時の嬉しさ</u> について。
クラスター全体
クラスター1は母国語ではない言葉を学ぶという研修内容に関して感じた精神的なストレスや困難さ、クラスター2は授業内容に関して自分が素直に思った感想や語学授業全体の雰囲気やカメラオンだからこそ感じられた良さについて、クラスター3は日本人ではない人と文字や言葉のコミュニケーションを行うことへの不安やそのコミュニケーションを通して感じた異文化コミュニケーションの楽しさ、語学授業で勉強したことを生かした時の嬉しさについてのイメージというのが特徴的だと思います。

クラスター1では、「研修全体の総括」として、「韓国語は難しい」「韓国語の勉強が大変だ」「カメラオンがきつい」というイメージを挙げている。「韓国語は難しい」「韓国語の勉強が大変だ」はプラスでもマイナスでもなく、「カメラオンがきつい」はマイナスのイメージとした。被調査者Bは、韓国語は日本人からすると似た発音がありその区別が難しいため「韓国語は難しい」と話した。また、オンライン研修中、毎授業知らない新しい単語が出てくることから「韓国語の勉強が大変だ」と話した。「カメラオンがきつい」に関しては、高柳・安(2022)からも日韓の学生は普段の大学のオンライン授業でカメラオフにしているため、普段とは違うカメラオンの環境にストレスを感じていることが分かる。

クラスター2では、「語学授業の雰囲気」として、「説明が丁寧だ」「口の動きが分かりやすい」「先生が優しい」「先生の説明が分かりやすい」というイメージを挙げている。全てプラスのイメージで、どのイメージも韓国語の先生の丁寧で親切的な教え方からイメージされたという。具体的には、「画像を用いた説明」「ティッシュペーパーを用いた口の動きの説明」「たくさんの用例を提示する新出単語の説明」「遅れをとっている自分に個別で発音音声を送ってくれたこと」などを話した。この中には、先ほどのクラスター1でマイナスに感じていた「カメラオン」の環境があったからこそ感じられた良さもあるとしている。参加者が多すぎなければ、発音の練習などお互いの顔を対面授業よりもしっかり確認できるオンラインライブ授業はオンライン研修の良い点としても捉えられる。これは高柳・安（2021）でも示唆された「オンラインライブ授業が効率的な言語学習ができる」という内容に類似している。

クラスター3では、「異文化コミュニケーション」として、「勉強が楽しい」「交流が楽しい」「交流は緊張する」というイメージを挙げている。「交流は緊張する」はプラスでもマイナスでもないイメージで、それ以外全てプラスのイメージである。被調査者Bは、勉強すればするほどペアの韓国学生やドラマの韓国語が少しずつ理解できるようになり「勉強が楽しい」というイメージを持ち、ペアの韓国学生との授業外ZOOM（画像プログラム）交流を通して「交流が楽しい」というイメージを持つことになったという。一方、ペアの韓国学生とのLINEを通じた文字による異国語交流では、「緊張する」という。このことから、被調査者Bはオンラインで互いに「聞く、話す」活動には楽しさを感じ、「読む、書く」活動には緊張感を持っていることが分かる。

全体として、被調査者Bは韓国語オンライン研修を通して、慣れない「カメラオン」の環境や韓国語での交流に緊張を感じながらも、「カメラオン」だからこそできる発音矯正やペアの韓国学生との交流をとてまプラスに捉えているのが特徴的である。

3.3. 被調査者C

図3は被調査者Cのデンドログラムである。

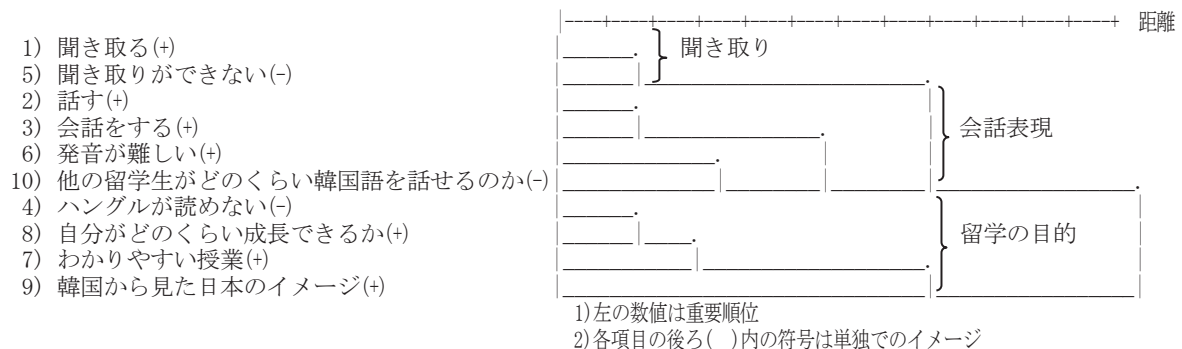


図3 被調査者Cのデンドログラム

被調査者Cのクラスター1～クラスター3までのクラスター解釈のインタビュー内容を以下の表3に示す。また、クラスター名については、クラスター1を「聞き取り」、クラスター2を「会話表現」、クラスター3を「留学の目的」とした。

表3 被調査者Cのクラスター解釈

<p>クラスター1:『1) 聞き取る (+)』『5) 聞き取りができない (-)』</p> <p>授業において、先生や学生が話す韓国語の内容を理解できるかどうか。先生に質問をされた時に、韓国語を部分部分でもいいから単語を聞き取り、どのようなことを質問しているのか自分の力で理解できるかどうか。逆に単語がひとつも聞き取れないと、何を言っているのか全く分からなかった。</p>
<p>クラスター2:『2) 話す (+)』『3) 会話をする (+)』『6) 発音が難しい (+)』『10) 他の留学生がどのくらい韓国語を話せるのか (-)』</p> <p>自分が言いたいことを韓国語で表現できるか。イントネーションのとりかた。質問に対して、自分の力で韓国語で答えることができるかどうか。「週末は何をして過ごしますか?」に対して、「7時に起きて、ご飯を食べます。そして、友達と百貨店へ行き、買い物します。」というような文章を韓国語で表現できるかどうか。</p>
<p>クラスター3:『4) ハングルが読めない (-)』『8) 自分がどのくらい成長できるか (+)』『7) わかりやすい授業 (+)』『9) 韓国から見た日本のイメージ (+)』</p> <p>自分がハングルが全く読めないところからのスタートであったため。より広い世界を知ることも今回の留学の目的であったから。文字の読み書きができないところから、話すところのどの段階まで2週間で成長できるかどうか不安とワクワクが入り混じっていた。実際には、3日ほどでハングルの読み書きができるようになり、最終日には先生の簡単な質問にスラスラと答えることができた。韓国の文化についても未知であり、自分は将来日本のコンテンツを海外へ広める仕事をしたいため、韓国の人は日本をどのように見ているのか興味があったから。</p>
<p>クラスター全体</p> <p>韓国語で意思疎通が図れるかどうかが重要な点であったと思う。自分が今までほとんど触れたことのない言語を使い、未知の文化を学ぶことは無謀ともとれる挑戦であるが、見方を変えれば韓国語でコミュニケーションを取ることさえできれば、どこまでも交流を深めることが可能であると思う。特に多くの韓国の学生が日本のアニメやドラマに興味を持っていて、自分も日本のドラマが好きなので作品や俳優、脚本家について話することができて楽しかった。</p>

クラスター1では、「聞き取り」として、「聞き取る」「聞き取りができない」というイメージを挙げている。「聞き取る」はプラス、「聞き取りができない」はマイナスのイメージである。「聞き取る」はVLIVE (SNS アプリケーション) 視聴時、「聞き取りができない」は韓国語の歌を聴く時にイメージされたという。オンライン研修中には、先生や韓国人学生が話す内容を聞こえてくる単語から理解することが多かったが、単語がひとつも分からない場合は、話の内容が全く分からなかったと話した。

クラスター2では、「会話表現」として、「話す」「会話をする」「発音が難しい」「他の留学生がどのくらい韓国語を話せるのか」というイメージを挙げている。そのうち、「他の留学生がどのくらい韓国語を話せるのか」はマイナスのイメージで、それ以外全てプラスのイメージである。「話す」はペアの韓国人学生とカカオトーク (SNS アプリケーション) での交流の際、「会話をする」「発音が難しい」「他の留学生がどのくらい韓国語を話せるのか」は授業の際にイメージされたという。被調査者Cは、先生やペアの韓国人学生との会話の中で、自分の言いたいことや聞かれたことに対する答えが韓国語で具体的に話せるように努力した姿が窺える。

クラスター3では、「留学の目的」として、「ハングルが読めない」「自分がどのくらい成長できるか」「わかりやすい授業」「韓国から見た日本のイメージ」というイメージを挙げている。「ハングルが読めない」はマイナスのイメージで、それ以外全てプラスのイメージである。ハングルが読めない「自分がどのくらい成長できるか」は初回授業時に、「わかりやすい授業」は全授業で、「韓国から見た日本のイメージ」は韓国人学生との交流時にイメージされたという。被調査者Cは、このオンライン研修で初めて韓国語を勉強する立場だったので、期待と不安が混じり合っていたが、

最終的には韓国語での簡単な会話が可能になっていた。また、将来日本のコンテンツを海外に広めるという目標を持つ被調査者 C は、研修中の韓国人学生との交流で韓国人学生の日本観を知ることができたということが窺える。

全体として、被調査者 C は韓国語初心者で韓国語オンライン研修に参加し、韓国語授業や韓国人学生との交流を通して簡単な意思疎通が図れるほどに成長した姿が特徴的である。また、日本のドラマやアニメなど、日本文化に興味がある韓国人学生と共通の話題で楽しめたという姿も窺える。高柳・安（2019）でも、日本人留学生が韓国留学を通して「日本に関心を持ってくれる人が多い」と感じ、実際に日本文化について話す機会があったことが示されているが、今回のオンライン研修でも同じようなことが起きていたことが窺える。

4. 考察

ここでは、調査結果より被調査者の各イメージの特徴を整理し比較しながら、共通点と相違点について述べる。

4.1. 被調査者（A,B,C）3名の共通点

3名の被調査者の共通点としては、それぞれ多少表現の違いはありながらも「交流が楽しい」「不安（緊張）」「韓国語は難しい」の3つが挙げられる。また、被調査者 B と C の共通点は、「発音が難しい」である。被調査者 3 名とも、研修中に「自分の言いたいことが言えるか」「相手の言っていることは何なのか」と慣れない韓国語に難しさを感じたり、不安や緊張を抱きながらも、韓国語授業や韓国人学生との交流に積極的に取り組み、それぞれ研修内容を「暖かい」「楽しい」とプラスに捉えていることが分かる。被調査者 B と C は調査の中で、授業に遅れをとっていたり、韓国語を学ぶのが初めてだったり、韓国語の学習に不安や難しさを感じていることが共通している。この2名は、韓国語の難しさとして「発音」を挙げており、日韓両言語の発音の違いに苦労をした様子が窺える。

また、研修中のオンライン授業について、被調査者 A は「近い（親しい）距離」での交流ができた話し、被調査者 B は、カメラオンだからこそ感じられた良さとして、発音矯正や授業雰囲気把握がしやすかったことを挙げた。実際には研修に参加する場所は離れていても、今回のオンライン研修のように、オンラインライブ授業で全員カメラオン、多すぎない参加者、など条件が良ければ、オフラインで行われる授業でも、満足できる学びや、親しさを感じる交流ができることが分かった。

4.2. 被調査者（A,B,C）3名の相違点

3名の被調査者の相違点としては、被調査者 A は自分自身の研修の様子だけでなく、研修参加者の様子を客観的に見ながら、参加者たちの「積極性」を感じている部分が特徴的である。被調査者 B は、他の2人が言及しなかったオンライン授業中の「カメラオン」について、ストレスを感じながらも一方で発音矯正や雰囲気把握など役に立ったという意見を述べているのが特徴的である。被調査者 C は、将来日本のコンテンツを海外に広める仕事を考えていることもあり、「韓国人学生の日本観を知れたこと」や「日本文化の話題で一緒に盛り上がったこと」などをプラスに捉えているのが特徴的である。これらの違いは、被調査者 A が自分個人というよりも研修参加者全体の雰囲気を中心に捉えている点、被調査者 B が普段と違うことや外国人とのコミュニケーションに不

安を抱えていた点、被調査者Cが自分の将来の進路ややりたいことを明確に把握している点に起因すると思われる。

5. まとめと今後の課題

今回の調査では、韓国語オンライン研修について「交流が楽しい」「不安（緊張）」「韓国語は難しい」という3つのイメージが共通して挙げられた。COVID-19の影響でオンライン化された研修では、オフラインの時と比べて不便な点が幾つか挙げられるかと予想したが、実際は「近い（親しい）距離で交流できた」「オンラインでカメラオンで参加するため、発音矯正や授業の雰囲気把握などに役に立った」など、オンライン研修の良い点が挙げられた。研修中に感じるマイナスの要素は、「韓国語は難しい」「不安（緊張）」などオンラインに限らず言語学習における大変さに関するもので、オンラインならではの大変さなどは特に指摘されなかった。その一方で、語学研修と並行して行った韓国人学生との交流が研修全体に良い影響を与えたようである。

今後は、オンライン研修に参加した日本人学生についてだけでなく、韓国人学生についても同様の調査を実施し、オンライン化された研修の授業や交流が日韓の学生たちに与える影響について多角的に検討していきたい。

謝辞

本研究の一部は科学研究費補助金（17K02838, 21H0053）の助成を受けて行われた。

引用文献

- 高柳有希・安龍洙. (2019)「日本人学生の韓国留学観の変化に関する一考察」茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究, 2, 91-102
- 高柳有希・安龍洙. (2021)「COVID-19が韓国留学中の日本人学生の留学生活に及ぼす影響の一考察」茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究, 4, 107-11
- 高柳有希・安龍洙. (2022)「日韓の大学生はコロナ禍における大学生活をどのように捉えているか」茨城大学全学教育機構論集大学教育研究, 5, 109-123
- 松本久美子. (2008)「学生交流与大学の国際化ー海外短期語学留学プログラム「第1回韓国語研修」を一例としてー」長崎大学留学生センター紀要, 16, 97-109
- 松本久美子. (2014)「学生は短期語学研修参加によって何を得ているかー長崎大学韓国語研修を事例としてー」長崎大学留学生センター紀要, 21-22, 47-62